

2023年11月15日  
すみだ北斎美術館

## 特別展 北斎サムライ画伝 | 関連イベント・展示構成のご案内

すみだ北斎美術館（東京・墨田区）は2023年12月14日（木）から2024年2月25日（日）まで特別展「北斎サムライ画伝」を開催いたします。浮世絵師・葛飾北斎（1760-1849）や門人が描いた浮世絵作品から、江戸時代の人々が抱いていたサムライのイメージにふれるとともに、刀剣博物館所蔵の「太刀 銘 信房作」（重要文化財）など、刀剣そのものと北斎作品に描かれた刀剣を見比べて、イメージをふくらませながら北斎の表現力をお楽しみいただく展覧会です。展示作品数は前後期あわせて171点にのぼります。（浮世絵作品など168点、刀剣類3点。）本展の新しい関連イベント情報のほか、展示構成や主な出品作品をご紹介します。



### フォトスポット：ARで北斎が描いたサムライたちと記念写真を撮ろう！

会場のQRコードをスマートフォンで読み取りフォトスポットにかざすと、北斎と弟子によるサムライたちが集まってきます。北斎が見つめた名のあるサムライや、太平の世の名もなきサムライに思いを馳せながら、記念撮影をお楽しみください。



※イメージ

- ・期間 2023年12月14日（木）～2024年2月25日（日） ※休館日を除く
- ・会場 すみだ北斎美術館 3階ホワイエ
- ・料金 無料（ただし、特別展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）  
\*AR体験のインターネット通信料はお客様のご負担となります。 ※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



### ワークショップ「北斎サムライ折紙づくり」

特別展「北斎サムライ画伝」に展示された作品をもとにした兜と刀のオリジナルの折紙作品を折って、身につけていただけます。

- ・日時 2024年1月27日（土）14：00～15：30
- ・会場 すみだ北斎美術館 MARUGEN100（講座室）
- ・講師 折紙作家 勝川東
- ・対象 小学生以上（小学4年生以下は要保護者同伴）
- ・定員 15組（保護者の方の同伴は1人につき2名まででお願いいたします。）
- ・料金 無料（ただし、特別展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）
- ・申込 12月14日（木）12:00からGoogleフォームにて受付開始予定



※次ページから展示構成と主な出品作品をご紹介します。



報道関係の  
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp



## 第1章 サムライの姿

日本の歴史の中で、平安時代末期の平清盛の政権から江戸幕府が倒れる約700年の間、主にサムライが政権を握ってきました。このうちサムライの性格が大きく変わる時期があります。それは豊臣秀吉により天下が平定され、徳川家康によって江戸幕府が開かれた頃です。平和な江戸時代のサムライは武力として期待されることが少なくなり幕府や藩の政治を担う存在として重視されるようになりました。

本章では、そのような北斎や弟子たちと同時代のサムライの姿と、それ以前の戦乱の世の武力の担い手として北斎たちが描いたサムライの作品をご紹介します。江戸の人々のサムライのイメージの一端に触れてみてください。

### 江戸市中のサムライ



上：葛飾北斎『絵本庭訓往来』（通期）、下：葛飾北斎『画本狂歌 山満多山』上（通期）※1 いずれもすみだ北斎美術館蔵

江戸時代に生き、浮世絵師として活躍した北斎が描いた当時のサムライの姿をご紹介します。左のサムライは、江戸の往來の様子の中に登場するサムライです。刀を2本差しています。右の2名のサムライも刀を2本差していますが、2人とも酔っぱらったのか羽織がはだけています。江戸の住人としてサムライが市中を歩いていた日常の様子です。

### 旅するサムライ



葛飾北斎「富嶽三十六景 從千住花街眺望ノ不二」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1



本図には帰藩する大名の参勤交代の行列が描かれています。右端では長持を運ぶ姿がみえます。その後ろには赤い附袋（つけぶくろ）に入れた鉄砲を担ぐサムライが歩いています。さらに、藁葺屋根の上からは毛鍵（けやり）の先が覗いていることから鍵組（やりぐみ）の行列が続いていることがわかります。久々に故郷に戻るサムライたちの表情は和やかです。

※1 半期で同タイトルの作品に展示替えをします

## 北斎が描く凛々しい源頼朝



葛飾北斎『北斎漫画』五編 源頼朝  
すみだ北斎美術館蔵（通期）

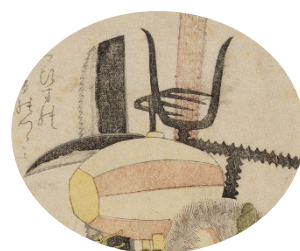


鎌倉幕府を開いた源頼朝が、烏帽子（えぼし）、狩衣（かりぎぬ）姿で、海岸沿いから遠くをみつめる凛々しい姿で描かれています。狩衣には源氏の家紋である笹龍胆（ささりんどう）があしらわれています。

## 北斎が描く表情豊かな弁慶



葛飾北斎「美人と弁慶の耳かき」  
すみだ北斎美術館蔵（後期）



当館初公開の作品です。江戸時代の風俗の美人が弁慶の耳かきをしています。武勇でしられる弁慶も、美人の手を押さえる仕草やその表情からはくすぐったそうにしているようです。本図で背負っている弁慶の七つ道具は、突棒（つくぼう）、刺又（さすまた）、鉄の棒、熊手、木槌、鋸（のこぎり）、鎌です。

## 第2章 戦いの場面

サムライは自己の戦闘技術を磨き、編成した家臣の武力を用いて戦ってきました。その目的は、家の存続や財産の維持・拡大、政治的・私的紛争の解決のためでもありました。サムライは生死をかけた戦いを繰り返すことで、相手の武力・政治的権力の縮小、滅亡を重ね、最終的に幕府を開いて政権を担う存在となります。武力として家臣を編成するにあたり、主従の信義や、礼節を重んじた自律集団を築いていきます。

本章では、江戸時代の情報に基づいて北斎たちが描いた歴史上実際にあった戦いから、当時の小説である読本などの物語の挿絵として描かれた戦いの場面までをご紹介します。また、サムライは魔を払うという考えもあったことから、怪異との戦いのシーンを描いた作品も取り上げます。

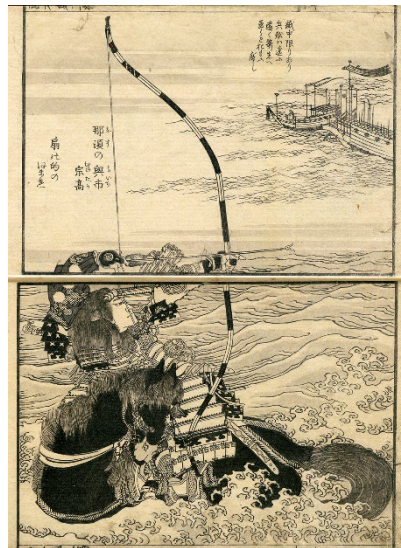
### 錦絵の武者絵シリーズ

左：「鎌倉の権五郎景政 鳥の海弥三郎保則」（前期）  
中央：「楠多門丸正重 八尾の別当常久」（前期）  
右：「鬼児鳥弥太郎 西法院赤坊主」（後期）  
いずれも葛飾北斎画、すみだ北斎美術館蔵



北斎が70代前半に制作した錦絵の武者絵シリーズです。藍色の背景に2人のサムライが争う様子を画面いっぱいに描かれていることが特徴で、5図が確認されています。そのうち当館所蔵の3図を展示します。

## 源平合戦から屋島の戦い



葛飾北斎『絵本武蔵鑑』下  
那須の与市宗高 扇的のほまれ  
すみだ北斎美術館蔵（通期）

寿永 4 年（1185）の屋島の戦いの一場面で、『平家物語』の「那須与一」で知られる場面が描かれます。鎌倉の御家人である那須与一宗高（なすのよいちむねたか）は、平氏方の船上にたてられた扇的の馬から射とめて、敵からも味方からも賞賛されました。本図では縦長の画面を使用して、弓をかまえる宗高を下に大きく、船や扇を右上に小さく描き遠近感を出していますが、弓矢の先に扇はありません。北斎は「紙中限りあり、兵船は遙に遠く箭先（やさき）へ画くとおもふべし」と、注意書きを記しています。

## 江戸時代に起こった事件—忠臣蔵



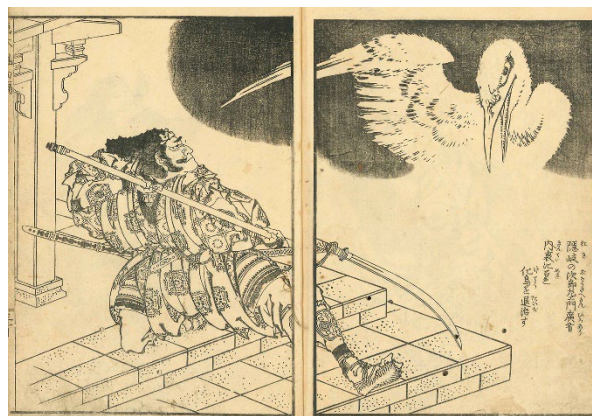
葛飾北斎「仮名手本忠臣蔵 十一段目」すみだ北斎美術館蔵（前期）



元禄 14 年（1701）に、江戸城の松之廊下で吉良上野介義央（きらこうずけのすけよしなか）に斬りかかったとして、播磨赤穂藩主の浅野頭領長矩（あさのたくみのかみながのり）が切腹に処せられました。その後、浅野家家臣であった大石内蔵助良雄（おおいしくらのすけよしお）以下 47 名が本所の吉良邸に討ち入ります。この事件は歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」として上演され、江戸時代の人々によく知られていました。

本図は忠臣蔵を題材とした全 11 枚の錦絵シリーズの一図で、吉良邸へ討ち入ろうと門に登る場面が描かれています。史実では、四十七士は表門と裏門に分かれます。

## 魔を切る



葛飾北斎『絵本魁』初篇 隠岐の次郎左衛門広有内裏に召れ化鳥を退治す すみだ北斎美術館蔵（通期）

サムライは、武力をもった存在であることもあいまって、魔を払う存在としても認識されていました。例えば、平安時代以降、宮中や貴族の家では、弓に矢をつがえず弦を鳴らすだけの鳴弦（めいげん）をサムライが行いました。これは病気や不吉なことがおきた時などに行われ、その音によって悪魔や妖怪を驚かせて退散させると考えられました。

『太平記』には鎌倉末期から室町初期のサムライ・真弓広有（まゆみひろあり）が矢を使用して怪鳥（けちょう）退治をした話が収載されています。北斎による本図では、闇夜に現れた怪鳥に、弓ではなく薙刀（なぎなた）をかまえて対峙する広有が描かれます。

### 第3章 サムライの得物

サムライは、刀や弓などの得物（武器）を駆使して戦っています。本来サムライは、弓馬の芸に通じた家柄の者ともいわれ、射芸が重視されていました。実際の戦いでは、楯で防ぎながらの弓矢の射懸け合いからはじまり、すきが生じると接近して鎌（やり）や刀で戦ったと考えられています。江戸時代には、サムライは大小の刀の二本差しが定められ、平和な時代でも武器を携帯しています。

本章ではサムライの象徴でもある刀や弓、他にも鎌や鉄炮などの武器、そして鎧を描いた作品を集めました。刀に関する作品は、刀鍛冶の姿を描いたもの、刀の意匠のデザインを北斎の門人が描いたものに加え、刀や鎌そのものも紹介します。描かれた刀や鎌と実物を見比べて、イメージをふくらませながら北斎の描写力をお楽しみください。

#### 「太刀 銘 信房作」（重要文化財）



「太刀 銘 信房作」（重要文化財） 刀剣博物館蔵（通期）

享保3年（1718）に因幡藩藩主の池田吉泰が八代将軍の徳川吉宗から拝領し、以来池田家に伝来した太刀で、概ね平安時代（794-1185頃）末期から鎌倉時代（1185頃-1333）初期頃の作と考えられています。本作のほか、刀剣類の展示には刀剣博物館の学芸員による解説文がつく点も本展の見どころです。

#### 北斎の波と刃文の波の共演



左：葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1、右：「刀 銘 津田越前守助広／延宝九年八月日」刀剣博物館蔵（通期）



北斎は波を繰り返し画題にしていますが、72歳頃に制作した「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」は集大成ともいえる代表作で、絵画における波を描いた傑作といえます。津田越前守助広（つだえちぜんのかみすけひろ、1637-1682）は摂津（現在の大阪府）の刀工で、通称甚之丞といい、濤瀾乱れ\*を創始して一世を風靡しました。

本展では「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」と、濤瀾刃（とうらんば）が特徴的な「刀 銘 津田越前守助広／延宝九年八月日」を並べて展示。北斎の絵画表現と工芸的表現としての濤瀾刃の刃文（はもん）から、江戸時代の異なる分野の名人が波をとらえて表現した作品をお楽しみください。

\*濤瀾乱れ（とうらんみだれ）…押し寄せる波のような形状をした刃文



左：二代柳川重信「三条小鍛冶之図」すみだ北斎美術館蔵（前期）、右：二代柳川重信「三作」すみだ北斎美術館蔵（後期）

北斎の孫弟子である二代柳川重信による肉筆画 2 点に、芍薬亭による賛が寄せられています。「三条小鍛冶之図」は能や謡曲の「小鍛冶」を題材にしており、稲荷明神の化身と、刀を打とうとする三条小鍛冶宗近（さんじょうこかじむねちか）が描かれています。「三作」（肉筆画）は、三作と呼ばれる刀鍛冶の名工（粟田口藤四郎吉光、相州正宗、郷義弘）が描かれています、どの人物がどの刀鍛冶かはわかっていません。

賛を書いたのは芍薬亭と称して狂歌で一派をなした菅原長根（すがわらながね）です。代々刀の鑑定などをして幕府に抱えられた本阿弥家の一族で、分家の四代目で光恕（こうじょ）と号し、古今の名物の刀剣を集録し八代將軍吉宗に献上したといわれる「享保名物帳」の別本（通称、芍薬亭本）の成立に関わった人物として有名です。二代柳川重信の肉筆画に芍薬亭が賛をした作例は多く残っていますが、この2作は、刀剣鑑定を生業にしていた芍薬亭が、刀鍛冶が描かれた肉筆画に賛をしたものとして重要です。

〈芍薬亭による賛〉

「三条小鍛冶之図」

狸風をおこし狐業をたすく、  
 術神に通といふ心へし、  
 人をしもまとはす鍛冶の未の世に  
 ありそとかねてをしへかほなる  
 天保辛丑春 七十四齡 菅原長根書於芍薬亭

「三作」

吉光すく刃の高手、古今其右に出る者なし、されど長劔を  
 不造乱刃に不巧、家隆卿になすらへて名家といはわん、  
 正宗刀劔の冠、刃文衆美を誂、門下良工多し、  
 定家卿になすらへて大家といはん、  
 義弘のたれ刃の絶妙憐なし、年を享事永からす、  
 後宗極殿に似て天織の才企及ひかたし  
 刃練絹を洗ふ京城の水  
 銚白砂を捲く東海の風  
 美しきいろいろは千代をかさねても双ふものなき越の山松  
 天保辛丑春 七十四齡 菅原長根書於芍薬亭



## 特別展「北斎サムライ画伝」開催概要



展覧会名	特別展 北斎サムライ画伝 <sup>がでん</sup>
会期	2023年12月14日(木)～2024年2月25日(日) ※前後期で一部展示替えを実施 前期 2023年12月14日(木)～2024年1月21日(日) 後期 2024年1月23日(火)～2024年2月25日(日)
休館日	毎週月曜日 ※開館：1月2日(火)、1月3日(水)、1月8日(月・祝)、2月12日(月・振休) 休館：12月29日(金)～1月1日(月・祝)、1月4日(木)、1月9日(火)、2月13日(火)
会場	すみだ北斎美術館 3階企画展示室、4階企画展示室
開館時間	9:30～17:30 (入館は17:00まで)
主催	墨田区・すみだ北斎美術館
観覧料	一般1,200円、高校生・大学生900円、65歳以上900円、中学生400円、障がい者400円、小学生以下無料
ホームページ	<a href="https://hokusai-museum.jp/Samurai/">https://hokusai-museum.jp/Samurai/</a>

●前売券及び当日観覧券の発売日・販売方法や、各種割引の詳細、団体での来館、最新のイベント情報は、すみだ北斎美術館公式ホームページをご覧ください。

●観覧日当日に限り、AURORA(常設展示室)もご覧になれます。



## 音声ガイド

・利用料金 500円(税込)

お手持ちのスマートフォンとイヤホンで『北斎サムライ画伝』の世界をご案内します。

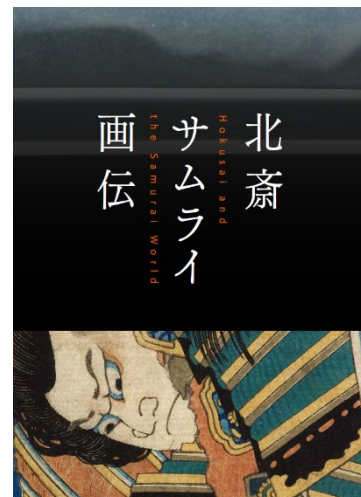
※イヤホンの貸出はございません。イヤホンが無い場合はご利用になれませんので、ご注意ください。



## 展覧会公式図録を12月14日(木)から発売

本展公式図録を発売いたします。コンパクトなA5サイズで、本展の出品作品全ての解説とともにお手元でお楽しみいただけます。作品の図版、解説のほか、担当学芸員による論考「北斎の武者絵—錦絵の武者絵シリーズと『和漢絵本魁』『絵本武蔵鑑』『絵本和漢誉』について」、コラム「サムライになった北斎の子」も収載。

- ・価格 2,600円(税込)
- ・形態/ページ数 A5サイズ196ページ(オールカラー)
- ・発売日 2023年12月14日(木)
- ・販売場所 1階ミュージアムショップ



# 特別展「北斎サムライ画伝」展覧会広報用 作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

◀ 画像貸出に関して注意事項 ▶

- ・画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。

ご希望の画像にチェックをお願いいたします。

特別展「北斎サムライ画伝」チラシ表面、横長バナー（1366px×500px）

葛飾北斎『絵本庭訓往来』すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎『画本狂歌 山満多山』上 すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

葛飾北斎「富嶽三十六景 従千住花街眺望ノ不二」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

葛飾北斎『北斎漫画』五編 源頼朝 すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「美人と弁慶の耳かき」すみだ北斎美術館蔵（後期）

葛飾北斎「鎌倉の権五郎景政 鳥の海弥三郎保則」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎「楠多門丸正重 八尾の別当常久」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎「鬼兒島弥太郎 西法院赤坊主」すみだ北斎美術館蔵（後期）

葛飾北斎『絵本武蔵鑑』下 那須の与市宗高 扇の的のほまれ すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「仮名手本忠臣蔵 十一段目」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎『絵本魁』初篇 隠岐の次郎左エ門広有内裏に召れ化鳥を退治す すみだ北斎美術館蔵（通期）

「太刀 銘 信房作」（重要文化財）刀剣博物館蔵（通期）

葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

「刀 銘 津田越前守助広／延宝九年八月日」刀剣博物館蔵（通期）

二代柳川重信「三条小鍛冶之図」すみだ北斎美術館蔵（前期）

二代柳川重信「三作」すみだ北斎美術館蔵（後期）

展示作品は都合により変更することがあります。 ※1:半期で同タイトルの作品に展示替えをします。

貴社名		
貴媒体名		
部署名		(役職名)
ご芳名		
ご連絡先 TEL	FAX	E-mail
ご掲載・放送予定		月 日
備考   ※ご要望などございましたらご記入下さい。		



報道関係の  
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp

